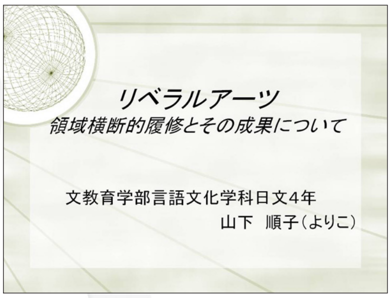
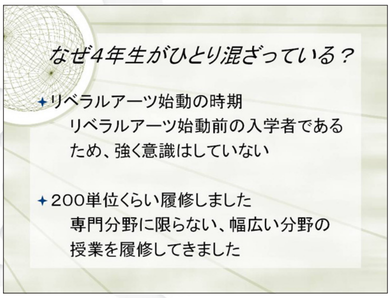
文理融合リベラルアーツ科目を受講して ―受講学生の意見―

「ことばと世界」系列受講生

山下 順子（文教育学部 言語文化学科日本語日本文学コース 4 年）



はじめまして。文教育学部言語文化学科日本語日本文学コースの 4 年生の山下と申します。よろしくお願いします。今回は学生の中で一人だけ学年が高くなっているのですが、よろしくお願いします。



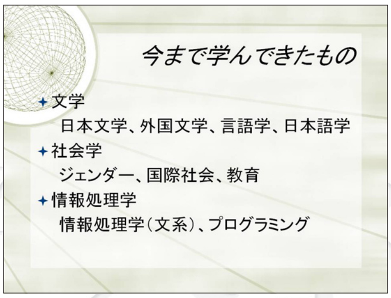
まず、なぜ私がここにいるのかということについてなのですが、今回なぜ私だけ学年が高いのかということについて、恐らくリベラルアーツの導入時期にかかわりがあります。確か平成 20 年度からだったと思うのですが、つまり現 2 年生の入学と同時にリベラルアーツが始動しています。

お茶大では、1、2 年生のときにほぼコア科目を取り終わってしまうということもあって、今の 3 ～ 4 年生は恐らくあまりリベラルアーツを取っていないのではないかと思います。

私自身も履修の際にリベラルアーツというくくりをそれほど意識しているわけではありませんし、実際、実はリベラルアーツの授業もあまり取っていません。9 月にもらった成績表を今回見返してきたのですが、「ことばと世界」系列でお呼びいただいたのに、「色・音・香」系列は 1 科目しか取っていなかったということもありました。

それでも私は卒業時の見込みとして 200 単位ぐらいになるのではないかというほど履修していまして、専門分野に限らない履修をしており、いわばリベラルアーツの始動前からリベラルアーツに似たことをしていたということで、今日はここに呼ばれたと思っています。

なので、本日は大学生活を終えようとしている身として、4 年間を振り返ってどのような履修をしてきたのか。そして専門にとらわれない履修がどのような成果をもたらしたのかということについてお話ししようと思います。



では、どのような履修をしてきたのかということについてですが、先ほど 200 単位と言ったとおり、私は結構たくさんの授業を履修してきました。私が今まで履修してきた授業は、大体このような学問分野にあてはまるのではと思います。

まず一番上の文学なのですが、私自身、日本文学を専攻としていることもあって、たくさんの授業を取りました。日本文学に限らず、外国文学も学びましたし、言語学についても学びました。中には留学生が約半分という教室で、日本語教育をかじったこともあります。お茶大は留学生が多い方だと思うのですが、その割に留学生となかなか交流の機会がないので、それはすごく貴重な経験になったと思います。

二つ目の社会学は、結構くくりが難しい学問分野だと思います。お茶大がジェンダー教育に力を入れているということもあったり、私自身が政治や国際社会といった分野に関心があるということもありまして、一般に社会学と称される分野の授業にもいろいろと顔を出しました。開会の挨拶をされた耳塚先生の授業も興味深く拝聴しました。

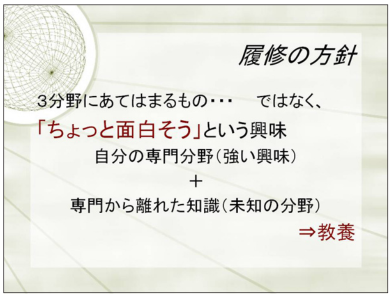
三つ目が情報処理学です。私が将来 IT 分野に進みたいと考えていたので、情報系の分野を多く取るように心がけていました。ただ、リベラルアーツの始動前は文系学生にもそれ相応な情報の授業というのが結構限られていたので、IT パスポートなどの授業が出てきたのがすごくうらやましいです。取れませんでしたが。

私は情報処理の文系向けの授業と、ほかにプログラミングや理系の 1 年生向けの授業が結構やさしかったので、それを取ってきました。

それぞれが専門ではないので、分野分けなど間違っているかもしれず、これだけ先生方がいらっしゃる中で恐れ多いのですが、細かいところは見逃していただければ幸いです。

Copyright©2010 Ochanomizu University. All Rights Reserved.

以上の３分野が私が履修してきたものです。こうしてみると、何となく「ことばと世界」っぽくはあります。

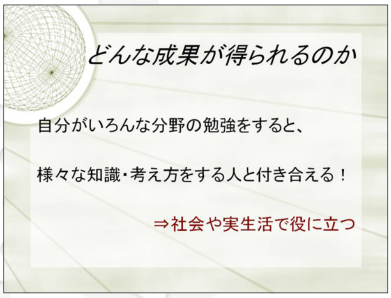


履修登録の方針なのですが、私も履修登録の際に、いちいち先ほどの３分野にあてはまるものを選ぼうと考えていたわけではありません。ではどのように授業を選んでいたのかというと、何となく面白そうというものを選んでいました。いい加減なと思われるかもしれません。

ただ、そういうちょっと面白そうだなと思ったときに、その授業がぱっと取れるというのは、リベラルアーツを展開するお茶大ならではのことだと思っています。そして、そのようなちょっと面白そうだとか、もしかしたら自分の学びたいことに関係があるかもしれないというようなやり方こそ、リベラルアーツが提唱する領域横断的な視野と、深い専門性との両立というのを実現できるのではないでしょうか。

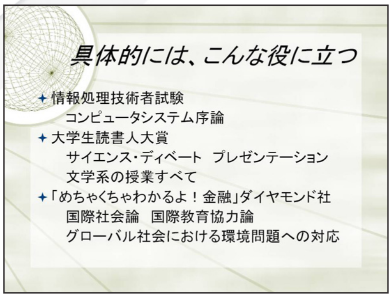
なぜなら、ちょっと面白そうという授業には大抵、自分の専門分野にかかわる、すごく興味があることというのと、自分の専門分野からちょっと離れた、今まで興味のなかった部分というのが混ざり合っているからです。そのような二つの可能性がある授業を積み重ねていくと、自分の専門分野については深い知識や多面的な視野も得られるし、専門から離れた部分についても一定の知識を得られます。これが教養と呼ぶものではないかと私は考えています。

そのように分野を横断した履修をして、実際にどんな成果が得られたのかということについてです。多少なりとも教養を身に付けて、一体どんな成果が得られるのか。どんなふうに得になるのかというと、もちろん自分自身の知識や人間性が育っていくということもあります。しかし私にとって一番の成果は、仕事やパーティーなどで一緒になったおじさん方と話が盛り上がるということでした。



私はサークル関係で出版の関係のことをしていて、学生にしては編集者や社会人などと付き合うことが結構多いのですが、そこではいろいろな知識を持った、いろいろな考え方をした方がいらっしゃいます。そこで、自分が相手に合った知識や考え方ができれば、その分話が盛り上がって、仲良くなって、人脈となります。つまり、より多くの教養を持てば、より多くのさまざまな人と付き合うことができるのです。大学という学問の場で、今提唱されているリベラルアーツですが、学問に限らず、むしろ社会や実生活の場でこそそれらの教養が生きてくるのだと思います。

抽象的な話ばかりではなく、具体的にこんなことに役立ちましたというお話です。これはすごく個人的な話になってしまうのですが、こんなものがあります。

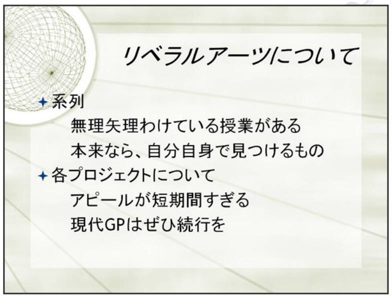


まず一つ目、情報処理技術者試験というのは国家資格なのですが、伊藤貴之先生かな、「コンピューターシステム序論」という授業がありまして、それを取ったのですが、その授業がすごく分かりやすくて、今は試験が再区分されてなくなってしまったのですが、初級システムアドミニストレーター、通称初級のシスアドという資格をほぼこの授業と、ちょっとした自分の勉強だけで取ることができました。これは就活で、文系なのに IT 分野を目指していた私にとってすごく助かりました。

もう一つ、真ん中の「大学生読書人大賞」というのは、学生が主催している大会なのですが、昨年５月に大学生同士で、文学作品についてプレゼンを競う大会ですが、そういう大会に出る機会がありまして、どんな成果が得られたかというと、賞金うん万円をもらったり、朝日新聞にちょっと載ったりと、それだけなのですが。その中で私が取っていた「サイエンスディベート」という授業やプレゼンテーション、そのほか文学系、日本文学などの授業すべてが役に立ちました。

最後に、『めちゃくちゃわかるよ！金融』というのは、ダイヤモンド社から出ている本なのですが、この本づくりの手伝いをさせてもらったことがあります。名前も出ています。お気になったらぜひ書店で手に取ってください。その本を作る中で、国際社会論とか国際教育協力論、グローバル社会における環境問題への対応などという授業は、私の中ではすごく役に立ちました。

私から体験に基づいてお話しできることというのは以上なのですが、リベラルアーツについて、部外者なりから言及させてもらいますと、この系列ごとの履修というのは、リベラルアーツの目的にあった、いいやり方だと思います。ただ、あまり系列分けにこだわりますと、今までの方も何人がさんざんおっしゃってきましたが、一部の、もともとあって衣替えしたような授業が本来持っていた良さを逆に殺すこともあるのではという思いがあります。また、中には無理やり分けたのかなと思われる授業もありまして、本当はこういう系列とか目標というのは、学生自身が自分に合った、自分なりの目標や系列というのを見つけて、それに沿って、分野は関



Copyright©2010 Ochanomizu University. All Rights Reserved.

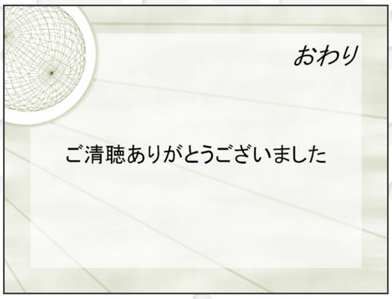
係なく取っていくということができれば、それが一番いいのではと思っています。

そこで、最初から系列というセットありきで学生へ提示するのではなくて、各授業が実際にどんなつながりを持っているのかということを、もっとパンフレットなり、最初のガイダンスなりで、私がガイダンスを受けたらいいのですが、そこで説明できればいいのではないかと思いました。

また、リベラルアーツとは別のプロジェクトについてなのですが、例えば少し前までは、「現代 GP」というプロジェクトをしていらっしゃったと思うのです。そのほかにも私の入学当時には、「ジェンダー」で今回と同じような似たようなことをやっていらっしゃって、賞状がもらえたということがありました。私が入学から、そうやって「ジェンダー」「現代 GP」、リベラルアーツと、4 年間で三つ変わっているということで、あまり短期間に目玉プロジェクトを変えると、履修する学生からすると本当にとまどってしまいます。

また、これは個人的な感想なのですが、単に知識を学ぶだけではなくて、それを伝えるにはどうするかという具体的な方法論を学べた「現代 GP」は、個人的には大好きでしたので、今年で終わるというお話を聞いたのですが、ぜひ存続させていただければと思っています。「現代 GP」という形ではなくても、学んだ知識をコミュニケーションの中で生かす方策を学ぶ授業、つまり発信、交渉能力を養う授業というのを、ぜひリベラルアーツにも組み入れてほしいと思います。私は昨年度の冬から春にかけて就活をしたのですが、その中でもお茶大生は力はあるのにアピール能力がないというような部分を結構言われたりしたので、ぜひ必要なことではないかと思います。

つたない発表ではありましたが、ご清聴ありがとうございました。



Copyright©2010 Ochanomizu University. All Rights Reserved.